

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		①作成日	令和 7 年 5 月 27 日
②法人・団体名	一般社団法人 慈有塾		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒206-0011 東京都多摩市関戸 4-24-7 第 16 通南ビル 5F-B		
④責任者氏名	高木 実有	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	宮道 敬	(役職名等)	-

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R06-033	⑦助成金額	93 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	高卒認定資格や大学受験を目的とした学習支援・無料塾事業				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	慈有塾多摩教室：東京都多摩市関戸 4-24-7 第 16 通南ビル 5F-B 慈有塾葛飾教室：東京都葛飾区四つ木 4-27-6 大森マンション 301 号室				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

〈通常授業〉

高校生 1 名、中卒の若者 7 名、高卒認定資格取得の若者 1 名の生徒に高卒認定試験及び大学受験を目的とした学習支援を提供しました。高卒認定試験を受けた生徒は、全科目合格や一部科目合格しました。高卒資格取得後、続けて学習支援を行い、専門学校（看護）1 名、四年制大学 2 名、進学しました。また、ゴールデンウィーク講座、秋季講習会を開催し、高卒認定試験の対策集中講座も実施しました。

〈啓発活動〉恵泉女学園で無料塾に関する講演会、早稲田大学で無料塾に関する講演会を行いました。

〈生徒の生活支援・奨学金申請サポート〉

全生徒を対象に、当団体の支援者からいただいた食品や図書カード、そして地域の子ども食堂と連携し、月に 1～2 回お弁当を配布しました。また、生徒のアルバイト先の相談や紹介、障害者給付金等の公的支援制度の紹介と申請補助にも取り組みました。大学合格した生徒を対象に、日本学生支援機構及びその他団体の奨学金申請のサポートを行いました。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	0	0	0	
高校生等	26	1.5	39	夜間高校在生徒 1 名の大学進学支援
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	30	1.0	30	学生講師 3 名へのフィードバックなど
その他	168	3.0	504	中卒の 17～35 歳(高卒認定 7 名、専門学校・大学受験 3 名/重複あり)
合 計			573	

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：高卒認定資格や大学受験を目的とした学習支援・無料塾事業

法人・団体名：一般社団法人慈有塾

作成者 氏名：宮道敬

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

〈慈有塾における無料塾事業の目的〉

貧困・家庭内暴力・引きこもり様々な理由で学習機会を逃してしまった若者を主な対象として、無料で学習機会を提供しています。貧困による教育機会を解消するために、高卒認定試験合格を第一目標とし、一人でも多くの若者にセカンドチャンスをつかんで欲しく、学習支援を行っています。

〈実施内容〉

- ・学習支援（通常授業）
- ・啓発活動
- ・大学生への若者支援現場の経験提供
- ・生徒の生活支援・奨学金申請サポート

2. 実施した奨学活動の詳細

① 通常授業の実施

2024 年度は、週 1 回・90 分を基本とした個別最適化された授業を実施し、高卒認定資格の取得および大学・専門学校受験を目指す生徒に対して学習支援を行いました。授業は、多摩教室および葛飾教室のいずれか、生徒にとって通いやすい場所を選択して行いました。

2024 年度の両教室の在籍生徒は以下のとおりです。

高校生：1 名

中学校卒業後の生徒（17 歳～35 歳）：10 名

- 高卒認定試験受験者：7 名
- 専門学校・大学受験希望者：3 名

それぞれが高卒認定試験や進学試験に向けて継続的に学習に取り組みました。

〈成果〉

- ・高卒認定試験に挑戦した 7 名は、全科目合格または一部科目合格を果たしました。
- ・専門学校受験をした生徒は、都立の看護専門学校に合格しました。
- ・大学受験に挑んだ 2 名は、それぞれ四年制私立大学に合格しました。

進学を果たした専門学校および大学合格者 3 名は、いずれも進学を選択し、現在は国家資格の取得に向けて新たなステージで努力を続けています。また、その他生徒も高卒認定資格を活かし、それぞれの職場でキャリアアップへと繋げています。



秋季講習会（生徒・学生講師）



早稲田大学講演会の様子

②啓発活動

2025 年度、以下の 2 大学において無料塾に関する講演活動を実施しました。

恵泉女学園大学にて、代表理事の高木実有および慈有塾に通う生徒 2 名が登壇し、自身の実体験を交えながら、無料塾が果たす役割や教育機会の重要性について講演を行いました。参加者からは、実際の声を聴けたことへの関心や共感が寄せられました。

早稲田大学では、葛飾教室長の宮道敬が登壇し、無料塾の概説に加え、慈有塾の生徒が直面する複合的な社会課題（貧困、家庭環境、教育格差など）について、事例を交えながら説明しました。講演後には、教育支援の在り方や制度との連携に関する質疑応答が行われ、学生や教職員との活発な意見交換が行われました。

本活動を通じて、無料塾の存在意義と社会的課題への理解促進を図るとともに、今後の支援連携の可能性を広げる貴重な機会となりました。

③学生講師の育成

2024 年度は、早稲田大学人間科学部の学生 3 名を学生アルバイト講師として採用し、無料塾の現場にて学習支援を担当してもらいました。これらの学生講師は、学習指導だけでなく、生徒との信頼関係の構築や学習習慣の定着支援といった重要な役割を果たしています。

また、定期的な振り返りやミーティングを通じて、教育支援における実践的なスキルの習得と、社会的課題への理解促進を図りました。学生講師自身にとっても、教育・福祉分野に対する関心を深める貴重な機会となっています。



後援団体のクリスマス招待行事の様子（生徒・学生講師）

④生徒の生活支援・奨学金申請サポート

2024 年度は、すべての在籍生徒を対象に、生活支援および奨学金申請に関する個別サポートを実施しました。

まず、当団体の支援者からご寄付いただいた食品・図書カードを配布し、生活の安定を図る取り組みを継続しました。さらに、地域の子ども食堂と連携し、月に 1～2 回の頻度でお弁当を配布することで、継続的な食支援を行いました。

また、生徒のアルバイト先の相談や紹介に応じるとともに、障害者給付金等の公的支援制度の案内および申請手続きの補助も実施しました。個別の状況に応じて、行政や支援機関との連携を図りながら、生活の安定に必要な支援へとつなげる支援体制を整えました。

さらに、大学進学が決定した生徒に対しては、日本学生支援機構（JASSO）およびその他の民間団体が実施する奨学金制度への申請支援を行い、経済的負担を軽減できるよう支援しました。



寄付食品の配布

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本活動を通じて改めて実感したのは、ドロップアウトした若者を支援するには、学習支援だけでなく、生活支援、メンタルケア、就労支援、キャリア形成支援など、多領域にわたる包括的なアプローチが不可欠であるという点です。生徒一人ひとりが抱える課題は複合的であり、教育支援はその一部にすぎません。良質な支援を届けるためには、支援者自身に高い専門性と、関係機関や地域資源との連携調整能力が求められることも痛感しました。

一方で、支援の質を高めようとすればするほど、人的・財政的資源の確保が課題として浮き彫りになりました。助成金に依存しすぎることなく、安定したキャッシュフローを確保し、自走可能な運営体制を築く必要があります。そのためには、寄付基盤の強化や有料プログラムの設計、パートナー企業・団体との連携強化など、多様な資金調達手段の構築が今後の発展に向けた重要な課題と捉えています。今後は「支援の質」と「組織の持続性」の両立を図りながら、より多くの若者が自らの可能性に再び出会える場を提供していきたいと考えています。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

ある生徒は、様々な困難があり、入塾するまで学習とはほぼ無縁な状態にありました。最終的には高卒認定資格を取得し、大学合格までたどり着くことができました。現在は国家資格取得を目指して、新たなライフステージを前向きに歩んでいます。

その生徒の変化を間近で見て、適切な環境と信頼できる人との出会いが、若者の未来を大きく変えることを改めて実感しました。

また、本活動を通して思うのは、支援には「良心」だけではなく「専門性」と「現実的な体制づくり」が必要だということです。支援者自身が感情だけでなく、制度や資源を使いこなす力、他分野と連携できる視点を持たなければ、目の前の若者の課題を本質的に解決することはできません。そして、支援の

場を持続させるには経済的な基盤整備も欠かせません。今後も、若者にとっての「セカンドチャンス」の機会を広げていけるよう、支援者自身の成長と組織の発展を並行して追い求めていきたいと考えています。